

道徳科学習指導案

1. 学 年 第3学年
2. 教 材 名 ウミガメものがたり（内容項目：D 自然愛護）
3. ね ら い 絵本を演劇的手法を使って読み聞かせることにより、絵本の世界を身体的にも体感させ、自然やそこに生きる動植物を大切に、環境保全について関心をもとうとする心情を育てる。
4. 本 時 の 目 標 絵本の世界に入り込み、ウミガメの世界を体感し、その時の想いを共有する。
5. 本時の展開

| | 学習活動 | 指導の内容と予想される反応 | 指導上の留意点 | 場の設定と評価 |
|------|-----------------------------|---|---|---|
| 導入 | Zoomを通じて講師の話聞き、今日の活動の概要を知る。 | 「俳優である自分は前回の授業でウミガメの気持ちをみんなと一緒に考えることができたので、今回はあの時の経験を活かしてある役を演じます。みんなも一緒に演じてくれたら嬉しいです。」 という流れから教員が「ウミガメものがたり」の絵本を教室で読み聞かせする。 | 前回の授業との連続性を意識する。 | 教員は教室で児童に読み聞かせをし、Zoomの画面上に絵本の画像を写し、絵本の世界へのナビゲーター的役割で俳優である講師はzoomの画面上からウミガメ役として、セリフを喋り、時に児童に話しかける。 |
| 展開前段 | ウミガメものがたりの読み聞かせ（前半）を聞く。 | ウミガメの散乱の場面を読み聞かせる。 これからどんなことが起こるんだろうという興味が高まっている状態。 | ウミガメの実際の大きさなど、補足情報を入れる事により、児童のウミガメに対する想像力や興味が増していく。 | 最初は普通に読み聞かせをしていき、まずは「教室とzoom」という空間と教員と児童と講師という関係性に馴染んでいく時間を作る。 |
| 展開中段 | ウミガメものがたりの読み聞かせ（中盤）を聞く。 | 子ガメの誕生から大人になり、海での生活の場面を読み聞かせる。 講師から児童を子ガメと見立てて、参加を促すような場面をつくり、当事者性を高めていく。 | 参加する事により、誰かに見られているような。物語の外側への意識が高まるような、緊張感を感じさせないように配慮する。 | 絵本への参加の仕方は、児童一人一人の個性に寄り添った形式をとるように気を付ける。 |
| 展開後段 | ウミガメものがたりの読み聞かせ（後半）を聞く。 | 大人になったウミガメが産まれた砂浜に戻ってくるまでの場面を読み聞かせる。 | 呼びかけて参加を促すようなことは控え、児童には物語の世界に浸ってもらうようにする。 | 中盤で当事者性が高まった後は、主体的な目線でウミガメに関する様々なエピソードに触れる事になる。 |
| 終末 | 振り返りを書く。 | 「あなたがウミガメの母親なら、生まれたばかりの子どもに、どんなことを伝えますか？」という発問で振り返りを書くように伝える。 | 書き進めることができない子には、個別に声をかけて、考えを引き出す。 | ノート |

6. 学習指導要領との関連

本単元ではD「主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」の指導要項「生命の尊さ」(17) 生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。副次的に「自然愛護」(18) 身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接すること。を受けて指導する。

絵本『ウミガメものがたり』を読み聞かせ、児童は、外部講師（俳優）と一緒に生まれたばかりのウミガメになりきって演じる。その中で児童は身近な人間生活の環境から大きな海の世界で生き残るために他の動物から逃げたり、助けられたりするウミガメの「生きる」姿を体験する。その上で、ウミガメや他の生き物に対してどんな気持ちを持つか考える。

ウミガメ以外に自然に目にする動植物について「いのち」について考えるきっかけとし、「自然愛護」単元につなげる。